2023 年 3 月 24 日

一般社団法人日本損害保険協会　関東支部

神奈川で防災セミナーを開催しました

～災害報道の現場と記者の本音に迫る～

日本損害保険協会関東支部 神奈川損保会（会長：山本政明・損害保険ジャパン株式会社横浜中央支店 支店長）では、2 月 14 日に横浜の崎陽軒ビルで、神奈川県損害保険代理業協会と共に防災セミナー「災害報道の現場と記者の本音」および非常食体験会を開催しました。

関東支部が 2021 年 12 月に実施した「自然災害に関する防災意識調査報告書」では、「ハザードマップを見たことがあり、被害リスクを認識している」と答えた人は 41.5%、災害時の避難行動について「日頃から家族と災害時の避難行動について話し合っている」と答えた人はわずか 21.8%と、災害が発生したとき日頃からどのように備えておくかという防災意識の向上が急務といえる状況です。このような現状認識のもと、神奈川損保会では、ハザードマップの周知、自然災害発生時の基本的な行動の理解や地震保険等の普及を目的として、損保関係者を対象としたセミナーを開催し、約 40 名が参加しました。

当日は、主催者を代表して、神奈川損保会の山本会長から、「本日は、100 年前の関東大震災や横浜大空襲から復興してきた歴史をもつ、崎陽軒の会議室をお借りしてセミナーが開催することができ、大変嬉しく思う。地震保険やハザードマップの普及促進に取り、組んでまいりたい。」との挨拶がありました。

次いで尾西食品（株）の岡松義男氏（営業本部営業部ビジネスソリューション課営業推進役・防災士）から、「尾西食品の取組み」として、非常食に用いられるアルファ米の歴史や車載用防災ボックスなどについて紹介があり、参加者は、水を注いで 1 時間でできる携帯おにぎりの試食体験を実施しました。

続いて、神奈川新聞社の渡辺渉氏（報道部地域報道統括部長兼論説委員）から、「災害報道の現場と記者の本音」と題し、過去の災害報道の現場経験や、神奈川県内の東日本大震災時の様子に触れつつ、「被災した方から、『保険に入っていてよかった』という声を聞くことは多い。取材で『未災地』という言葉と出合ったが、まだ被災していないとしても、これから、日本中どこでも災害は起きうると思って備える必要がある」との話がありました。

最後に神奈川県損害保険代理業協会の三ヶ尻会長より、登壇者への謝意を述べたうえで、地震保険の普及に向けて邁進していく旨閉会挨拶があり、盛況のうちに幕を閉じました。

当支部では、引き続き、防災・減災にかかる意識向上に向けて取り組んでまいります。

尾西食品・
岡松氏による非常食体験

神奈川新聞社・
渡辺氏による基調講演

セミナーの様子

以　上